

目的・背景

過疎地域に指定されている鳥取市佐治町は、高齢化率が56%と高く、患者自身での移動が困難なことに加え、共助が可能な周囲の世帯も減少している状況です。また、近年の大雨や大雪、交通手段の確保等、診療所への通院そのものが課題となっています。

このようなことから、患者の利便性を向上させるとともに、安定した診療機会を確保するため、対面診療を補完する仕組みとして、オンライン診療による医療のICT化を推進しています。

事業概要

令和6年度は、オンライン診療に必要な情報通信機器や診療所内の通信環境を整備するとともに、地域の集会所を利用して実証実験を行いました。地域の方のご意見を伺いながら、課題の整理や今後に向けた取組について関係者で協議・検討しているところです。

【対象者】 佐治町に居住する高齢者などのうち、症状が安定している再診の患者を基本とする。

※対面診療からの切り替えは、患者やその家族と相談しながら適宜医師が判断する。

【利用方法】 ①患者自身で通信機器等の操作ができる場合は、スマートフォン等によるビデオ通話で診療を行う。

②患者自身で通信機器等の操作ができない場合は、タブレット端末を持参した看護師が訪問し、患者をサポートしながら診療を行う。

今後の展望

オンラインで診察した医師からは、ビデオ通話でも違和感なく診療できたことや、医師の働き方改革にもつながる可能性があるものとして好印象を得ています。また、患者からも、交通手段が限られる地域において、移動の負担が少なくなるなどの前向きな意見をいただいております。令和7年度以降も継続して実施し、高齢化が進む佐治町の医療を維持し、患者の方々へ必要な医療を提供していきたいと考えています。

また、市内の民間事業者とも連携しながら、処方薬の配送や集会所のオンライン診療の拠点化について事業化を検討していきます。

～オンライン診療により期待される効果～

- 在宅の訪問診療との組み合わせによる診療機会の確保
- 悪天候等や災害時等の通院・往診できない場合の診療機会の確保
- 感染症流行時、院内での感染リスクの排除及び患者の通院不安の軽減 など

実施主体	鳥取市、株式会社L I M N O、株式会社アクシス、日本海ケーブルネットワーク株式会社、株式会社鳥取テレピア
実施場所	鳥取市
活用技術	ICT
支援事業	地域医療介護総合確保基金事業補助金（鳥取県）



地域の集会所を利用したオンライン診療実証実験の様子



令和5年8月の台風7号による被災状況（佐治町地内）